

優秀賞

後退事故

(岡山)

岡山スイキュウ (株)

角田 浩詞

「自分は大丈夫だろう。」それは私が、社内教育で指導官から聞いた時に思った感想だ。「後退時の事故の一番の要因は、安全不確認である。」「必ず降車し、周囲の安全を確認してから後退を行う事。」と習った時でした。

私は、今、もしその時に戻れるなら当時の自分に対し、「当事者意識を持って」と言いたい。

令和六年の二月十七日の午後、私は大型トラックで後突事故を起こしてしまいました。通常の大阪へのルートで、冷凍冷蔵庫施設へ荷物の集荷の為に向かいました。この施設には今まで幾度となく訪れている集荷場所で、特に事故を起こすとは思っていませんでした。

受付を済まし、施設の近くで荷待ち待機していました。少し疲れていたせいか、待機中に車内でウトウトしていました。携帯電話に連絡があり、施設事務所横の1番バースへ接車する様に指示が有りました。

1番バースは、他のバースに比べて少し幅が狭く、また今回は左隣へ大型トレーラが先に接車していました。しかし、私はいつも接車している施設だから、という何の根拠もない自信と、今まで大きな事故や後突事故を起こしていないプライドから、いつも通りに後部の観音扉を開けて、少し眠気が残る中、左側のトレーラを気にしながら左ミラーで大型トレーラを確認し後退しました。

その結果、自車の右後部が施設の壁に後突してしまいました。後突させた瞬間、トラックがぐらつく感覚と鈍い音が今でも私の頭の中に残っています。

私は直ぐにブレーキを踏み、トラックを止め、エンジンを切り現場を確認しました。そこには、自分の愛車が損傷している姿と施設の壁に傷ができていて何とも言えない状況がありました。

施設を破損させてしまった事実と、まずは誰に？どこに？何を連絡したらいいのか？、という動揺と、仲間や会社に迷惑をかけるという申し訳なさと同時に、愛車が損傷してしまった悲しさ、「まさか自分が！」など、沢山の感情が、うごめき心臓が早鐘を打つ中、会社の管理者へ連絡を取り、事故の報告をしました。

と言うと管理者も「えっ本当に？」と言う返事が有り、詳細を伝えて、管理者から指示された通り最寄りの警察に連絡し、施設の方とも損傷についての話をしました。

幸いにも施設の中にいた人や周りに人も居なく、人身事故とならなかった為、大きなトラブルにはなりませんでしたが、トラックの修理と施設の修理が必要となりました。

この経験を通じて、私は運転中や、後退時の安全確認に対する注意力や確認の重要性を再認識しました。経験があるから？慣れている場所だから大丈夫？と言う、何の根拠もない自信が冒頭に述べた「自分は大丈夫だろう。」につながっていたことを実感し、社内教育が、何のためにあるのかを、今やっと理解することが出来ました。今回の事故を教訓に、今後は「当事者意識」をしっかり持ち、更に慎重な運転を心掛けていきたいと思えます。

事故後、私の意識の中で変わった事があります。ただの自己満足の「プライド」ではなく、安全運転に裏付けされたプロドライバーとしての「誇り」だという事です。私たちの仕事は公道を使わせてもらっています。そこで事故を起こすと多くの方々にご迷惑をお掛けしてしまいます。また大切な荷物も届かなくなります。だからこそ、徹底した安全運転を心掛け、求められている所へ、しっかり荷物をお届けし、社会を支えていくという意識が事故の後から改めて強く芽生えました。

今回の事故から多くの事を学びました。どれだけ経験を積んでも、不意のミスが事故につながる可能性がある事を痛感しました。

これを機に、一層、物流の安全に対する意識を高め、また周りの手本になれるような根拠の無い「プライド」は捨て、安全運転に「誇り」を持って、本当のプロドライバーになりたいと思えます。そして本当のプロドライバーとは何かということをしっかり伝えていける存在になりたいと思えます。

この体験記が、誰かの何の根拠も無い過信した意識を変える手助けの一つになればと願っています。